

第 74 回 大腸癌研究会ガイドライン委員会 議事録 (案)

日時 平成 23 年 1 月 20 日 (木) 9 : 00 ~ 9 : 50

場所 アクロス福岡 6F 608

司会 : 渡邊聡明

(敬称略・順不同)

出席者 : 杉原健一、渡邊聡明、島田安博、板橋道朗、田中信治、固武健二郎、伊藤芳紀、味岡洋一、五十嵐正広、石黒めぐみ、石田秀行、上野秀樹、坂井義治、斎藤豊

欠席者 : 落合淳志、大倉康男、小口正彦、金光幸秀、高橋慶一、濱口哲弥、兵頭一之介、室圭、吉野孝之

1. 開会挨拶 (渡邊)

2. ガイドライン 2010 年度版 (渡邊)

1) 大腸癌治療ガイドライン 2010 年版医師用の印刷・頒布状況

2010 年 7 月 1 日 初版第 1 刷 25,000 部印刷

2010 年 7 月 25 日 初版第 2 刷 5,000 部印刷

* 現在までの販売数 : 約 27,500 部

2) 大腸癌研究会ホームページ上の改訂情報

「2010 年版での主な改訂点」として掲出。

3) 「大腸癌治療ガイドライン 2010 年版医師用」大腸癌研究会ホームページ掲出

2010 年 11 月 15 日に大腸癌研究会ホームページに掲出。

4) 構造化抄録の進捗状況

日本癌治療学会平田班との合同作業を行い、58 文献の構造化抄録を完了させ、日本癌治療学会、国立がん研究センターがん対策情報センターおよび Minds に配布した。ただし、日本癌治療学会では、構造化抄録は今後掲載しない方針となっている。

5) ガイドライン 2010 年版に対する意見公募 (問題点、新たな CQ)

前回の第 73 回研究会以降、新たな意見はなし。

6) アンケート調査について

2005 年版発刊時に倣い、2010 年版に関しても発刊より 1 年以降にアンケート調査を行う予定。アンケートは、Web 上に質問を提示して、オンラインで行う予定とする。

3. NCCN ガイドライン日本語版 (渡邊)

1) 現在、結腸癌、直腸癌は 2009 年版、肛門癌および大腸癌スクリーニングは 2010 年版の監訳が掲載されている。

2) 今後、NCCN ガイドライン 2011 年版の確定版が完成されると、監訳の依頼が来る予定である。この依頼を受けた段階で、本ガイドライン委員会において作業について協議を行う。

4. ガイドライン改訂作業 (渡邊)

1) AGREE の評価結果に関する説明と、この評価結果を次回の CQ 改善に向けて参考とすることが確認された。

2) CQ については現在の体裁を踏襲するものとし、新たな CQ 案については、2011 年 2 月中に各分野・グループを中心に作成し、メーリングリスト上で議論し、2 月下旬に確定を行う。

また、各分野のCQ案について、ガイドライン委員会全体として討議を行い、3月末日までに新たなCQ案確定させたい。その後、文献検索を開始し、第75回大腸癌研究会において、CQ案を公示し、会員の意見を求めるものとする。

- 3) これまでアドバイザーとして参加して頂いていた國土典宏先生には、今後ガイドライン委員として就任して頂く（内諾有）。
- 4) FIRIS 試験（Lancet Oncology に掲載）については、大腸癌研究会ホームページ上に情報提供の形で掲載する。

5. 今後のガイドライン改訂作業（渡邊）

1) 改訂スケジュール

2011. 02 ~ 2011. 07	問題点への対応、CQの作成
2011. 07	第75回研究会にてCQ案公表・意見収集（会員、一般より）
2011. 07 ~ 2011. 09	CQ案に対する意見検討および最終CQ確定。 系統的・網羅的な文献検索開始（前回の検索結果も利用）
2011. 10 ~ 2012. 03	本文の作成と推奨文の決定
2012. 03 ~ 2012. 05	推奨度の決定
2012. 06	ドラフト版初版完成
2012. 07	第77回大腸癌研究会でのドラフト版の提示
2012. 07~12	研究会ホームページのドラフト版の掲載と会員からの意見募集

6. 遺伝性大腸癌ガイドラインについて（渡邊）

- 1) 前回、家族性大腸癌委員会より提示された家族性大腸腺腫症（FAP）診療ガイドラインは、家族性大腸癌委員会とガイドライン委員会とが協働して、体裁を大腸癌治療ガイドラインと同様な形式として作成することとなった。
- 2) 石田秀行先生に家族性大腸癌委員会を代表し、ガイドライン委員に就任していただく。
- 3) 家族性大腸癌委員会において、家族性大腸腺腫症（FAP）診療ガイドラインについては、岩間毅夫先生を中心に、リンチ症候群診療ガイドラインについては富田尚弘先生を中心に作成を行っている。その他、両ガイドライン作成の経緯等について説明がなされた。（石田委員）
- 4) 家族性大腸腺腫症（FAP）診療ガイドラインおよびリンチ症候群診療ガイドラインは両者を統合して大腸癌研究会が主体となり、発刊することが確認された。
- 5) 提示された文字主体のガイドラインではなく、大腸癌治療ガイドラインに則し、図、フローチャート、アルゴリズム等を掲載し、CQを記載する体裁とする。（杉原会長、固武委員、坂井委員）
- 6) 2011年7月にガイドライン委員会で指摘があった点を踏まえた体裁に変更し、ガイドライン（案）を提示する。（石田委員）
- 7) 次回大腸癌治療ガイドライン改訂に際しては、遺伝性大腸癌に関する解説を記載する。（渡邊、板橋委員）

7. その他

- 1) 日本消化器病学会から大腸癌研究会に「大腸ポリープ診療ガイドライン」共同作成の依頼があり、大腸癌研究会より田中信治先生をはじめ、5名の先生を委員として推薦し、承諾した。（杉原会長）

予定時間の終了に伴い、閉会。

追記：本委員会の終了後、金原出版から大腸癌治療ガイドライン 2010 年版の電子版を発刊したいとの申し入れがあり（値段は冊子と同価格）、幹事会ならびに世話人会で承認された。

以上